

**越後平野における生態系ネットワーク 自然環境活用部会(第6回)**  
**議事要旨**

- 日時：令和7年5月26日（月） 13:00～15:00
- 場所：北陸地方整備局 1F マルチスペース（Web会議併用）
- 配布資料：
  - ・次第
  - ・出席者名簿
  - ・資料1 第5回自然環境活用部会および第5回協議会開催概要
  - ・資料2-1 越後平野における生態系ネットワーク形成行動計画（2035）[案]
  - ・資料2-2 取組照会結果および対応案一覧
  - ・資料3 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト
  - ・資料4 イベント出展報告
  - ・【参考資料1】 自然環境活用部会設立趣旨、規約及び委員名簿
  - ・【参考資料2】 第5回自然環境活用部会 議事要旨（案）
  - ・【参考資料3】 第5回協議会 議事要旨（案）

■出席者（敬称略）：

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会  
第6回自然環境活用部会 出席者名簿

（敬称略）

氏名	所属 役職	参加方法	出欠
<委員>（50音順）			
磯貝 浩史	公益社団法人 新潟県観光協会 次長	対面	出席
河口 洋一	徳島大学大学院 社会産業理工学部研究部 准教授	WEB	出席
吉川 英夫	新潟日報社 総合プロデュース室 執行役員室長	—	欠席
木村 直	新潟県生活協同組合連合会 専務理事	—	欠席
関島 恒夫	新潟大学 農学部 農学科 教授	—	欠席
玉木 朋人	新潟県商工会連合会 事務局長	対面	出席
藤田 美幸	新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科 教授	対面	出席
村山 敏夫	新潟大学 教育学部 准教授	WEB	出席
山田 秀行	新潟市北区観光協会 会長	対面	出席
<オブザーバー>			
佐藤 安男	新潟県水鳥湖沼ネットワーク 事務局長 水の駅「ビュー福島潟」 副館長	対面	出席
土井 一心太	阿賀野市観光協会 瓢湖白鳥観察舎販売組合 代表理事	対面	出席
丸山 孝行	新潟県土木部 河川整備課 副参事	WEB	出席
齋藤 太一	新潟県土木部 河川整備課 主任	WEB	出席
土田 真生	新潟県土木部 河川整備課 技師	WEB	出席
五十嵐 康紀	新潟県環境局 環境対策課 係長	WEB	出席
原田 泰弘	新潟県環境局 環境対策課 主任	WEB	出席
神林 愛	新潟県農地部 農地計画課 主任	WEB	出席
山本 悠斗	新潟県農林水産部 農産園芸課 主任	WEB	出席
木村 裕矢	新潟市北区役所 産業振興課 商工観光グループ 係長	対面	出席
小柳 光明	新潟市北区役所 産業振興課 文化・スポーツグループ 主幹	対面	出席
小林 和貴	新潟市北区役所 産業振興課 文化・スポーツグループ 主査	対面	出席
最上 祥成	関東地方環境事務所 野生生物課 課長補佐	WEB	出席
長谷川 希和	関東地方環境事務所 野生生物課 課長補佐	WEB	出席
新井 孝尚	関東地方環境事務所 野生生物課 生息地保護連携専門官	WEB	出席
原 文宏	応用生態工学会新潟	WEB	出席
近藤 伸介	応用生態工学会新潟	WEB	出席
竹内 聡	応用生態工学会新潟	WEB	出席
原 俊彦	北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所 専門調査官	WEB	出席
<事務局>			
山崎 憲人	北陸地方整備局 河川部 建設専門官	対面	出席
今井 孝幸	北陸地方整備局 河川部河川計画課 河川環境係長	対面	出席
中村 美羽	北陸地方整備局 河川部河川計画課 河川環境係	対面	出席
佐藤 伸彦	（公財）日本生態系協会	対面	出席
伊藤 絵理子	（公財）日本生態系協会	対面	出席
藤田 旭美	（公財）日本生態系協会	対面	出席

## ■議事

### (1) 第5回自然環境活用部会および第5回協議会の報告

- ・質疑なし

### (2) 行動計画策定に向けた検討

#### 委員 A

- ・「人・地域づくり目標カテゴリー／広報」に、えちごネットワークのホームページや、既存のイベントでの広報など、様々な取組が示されているが、個々の取組をつなげるような枠組みがあれば、相互に伝え合えるような情報発信ができる。

#### 事務局

- ・協議会や部会が一つのプラットフォームのような場になればよいと考えている。各主体が行動計画にある取組を実施し、事務局は協議会や部会を開催し、情報交換や関係者間の連携を図っていきたい。

#### 委員 A

- ・過去にえちごエコネットを説明するパネルを作成したと思うが、これらを佐潟や福島潟など地域の関連施設で展示し、繋がりをつくっていければ良いのではないかと考える。

#### 部会長

- ・統一したデザインやサインの活用などを通じて、えちごエコネットのブランディングを進め、えちごエコネットに対する県民の理解を深めていければと考える。

#### 事務局

- ・(人材育成と支援体制の構築について) 国土交通省の取組では金銭的な支援の形はないため、協議会などで情報共有を中心とした支援を進めるなどのやり方を目指していきたいと考えている。

#### オブザーバーA

- ・えちごエコネットのプラットフォームは構築されているものの、その取組については一般の方まで伝わっていないと感じている。より若い層に取組を周知し自然や越後平野への興味を促せるよう、様々なイベントへ参加するなど、常に露出できるような機会や収益につながるような事業を模索できればいい。

#### 委員 B

- ・人材育成については、対象を広げることでより多くの人に関心を持ってもらえる。学校側の制約などもあり難しいとは思いますが、小学校だけでなく中高生や、周辺地域にまで対象を拡大できれば理想的だろう。

#### 部会長

- ・環境学習は義務教育課程で実施されるが、年齢が上がるにつれて関心が薄れがちである。大人の遠足など、学習というハードルを下げたプログラムを、環境学習の対象として空いている世代に向けて展開できるとよい。

### (3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクトについて

#### オブザーバーB

- ・福島潟で潟舟体験が動き出しており、料金設定はやや高めではあるが、既にホームページにも掲載している。また、昨年夏からレンジャーガイドの取組も開始し、1時間6,000円でガイドを提供している。潟食、潟舟、レンジャーガイドの3つの取組はワイズユースに当たると考えており、宣伝や広報の協力をお願いしたい。北区役所と連携して、さらに展開していきたいと考えている。

#### オブザーバーC

- ・一昨年頃から福島潟をよりPRする方法について検討している。潟食は、もともと地元の方々が日常的に食べてきたものだが、そのなりわいを文化として伝えていきたいと考えている。インバウンドの富裕層は、そこでしか得られない価値を求めているが、福島潟には食や自然といった価値がある。ツアーの一環として試験的に始めた潟来亭での潟食が好評を得たことから、今後もPRを進めたい。ただし時期によって食材の確保が難しいため予約制としている。

#### 委員C

- ・実際に舟に乗って食材を獲っている地元の漁師と、潟来亭の囲炉裏端で交流できるのは旅行客にとって嬉しい体験になっているのではないかと。ただ、属人的な部分があるため、その方たちとの交流が常にパッケージ化できるかという課題がある。

#### 委員A

- ・木製の舟の製造工程が分かると面白いと思った。福島潟でまだ作られているならば見学に行っても面白いのではないかと。
- ・自転車は海外からの旅行客を迎えるのに重要なツールになっていると考える。福島潟で自転車を活用したツアーを検討してはどうか。

#### 委員D

- ・新潟県では昨年、観光行動計画を練り直したところである。「新潟県の大地と雪の恵み」をコアバリューとして設定し、大地のストーリー、川のストーリー、海のくらしのストーリーなどを通じてお客様に価値を伝えていくことを重視している。
- ・県では潟のストーリーはまだ作っていないが、この協議会で潟のストーリーを作り、潟の成り立ちや利点、活用方法などを伝えることができれば、今後のツアーや自然学習にも利用できるのではないかと。

#### 部会長

- ・北区郷土博物館には素晴らしい展示があるので、連携して活用できるといいと思う。

#### 委員A

- ・四国の四万十川下流では、漁をしながら船の中でお弁当を食べるというツアーがある。説明を受けながら、その場で食べられるのは非常に面白かった。期間限定ではあるが、そういったこともできるといいのではないかと。

#### オブザーバーA

- ・ハクチョウの北帰行の時期に重なったものの、瓢湖の公園内や施設に貼った QR コードからのアクセスが一定程度あったと聞き、掲示の効果を感じた。閲覧の終着点となるホームページの内容を、より求められている情報にアップデートしていければよい。
- ・瓢湖ガチャは全部で 15 種類のデザインがある。瓢湖にはハクチョウを見に来る観光客が多いためハクチョウデザインのものが多いが、野鳥好きの方々にもアプローチできるようなデザインも増やしていきたい。

#### (4) イベントへの出展について

##### 委員B

- ・エコネットにおいて佐潟や瓢湖、福島潟は訴求力があるので、そこを中心に展開されるのが効果的であると考えている。食やイベント、グッズの企画力は非常に高いので、これをどのように PR していくかが重要。
- ・新潟県内の住民、特に新潟市民の中に佐潟や福島潟、瓢湖へ訪れたことのない人も多いため、新潟市のイベントに出展し PR 活動を行うことは重要であり、継続的に行った方がいい。

##### 部会長

- ・新潟県民、新潟市民が身近な自然にアクセスしていないことから、インナーマーケティングが必要であるとする。
- ・報告にあった選挙風ポスターは、興味関心のない人の目も引く良いアイデアだと思う。指標種の特徴がわかりやすく、説明するきっかけにもなっている。

##### 委員D

- ・アンケートの回答数を増やすためには、ガチャの設置や、佐渡の世界遺産 PR ブースでの「金塊つかみ取り体験」などが参考になるかもしれない。
- ・施策の KGI や KPI を踏まえたアンケート内容の検討が必要。

#### (5) その他

##### 事務局

- ・今年 9 月に新潟で応用生態工学会全国大会が開催される。公開シンポジウムのテーマとして生態系ネットワーク形成を基軸とした地域づくりが取り上げられることになり、学会からの要請により、エクスカージョンの中で福島潟を中心とした自然環境の活用について議論を深める場を検討中である。

以上